

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-02	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	国内都市交流事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課		課長名	佐藤	
		担当者名	齊藤		内線	2522	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-02-01	国内都市交流事業					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度○26年度）○建設事業●それ以外の継続事業						
開始年度	●昭和○平成		56年度	根拠			
終期設定	○有●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内○都基準内●区独自基準			計画区分	●計画○非計画		
行政評価事業体系	分野	V文化創造都市					
	政策	09伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	02国内・海外都市との交流の推進					
目的	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深めることにより、区民に豊かな自然とのふれあいの場を提供し、区民の心の豊かさと相互の町の活性化を図る。平成17年11月に策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」に基づき、国内の都市との交流を積極的に推進することにより、荒川区の魅力と活力を高め、より豊かな区民生活の実現をめざす。						
対象者等	区民						
内容	H26年度の主な交流事業★：「26年度川の手荒川まつり」出展都市 ★秩父市：春祭り出展★北杜市：北杜ふるさと祭りに出展者派遣★大多喜町：大多喜お城まつり参加（天王太鼓つくも会を派遣）★鴨川市：シーフェスタinKAMOGAWA参加（フラダンスグループ「カ・パ・フラ・オ・カ・プア・メリア」出演）★上越市：越後吉川酒まつりに出展者派遣、副区長出席★福島市：ミスピーチトップセールス来庁、荒川区民を対象としたツアー実施★桑折町：桑折町町制60周年記念式典に副区長出席★石川町：伝統技術展他区内イベントに多数出展★村上市★釜石市：釜石冬の味覚まつりに出展者派遣、釜石市へ職員を派遣★射水市：春まつり出展★鮭川村：鮭の里親事業、春まつり出展等★三条市★福井県：水仙娘が来庁、手打ちそば教室実施★二本松市★小野町★つくば市：梅娘区長表敬訪問、春まつり出展等★津南町★大垣市：第36回荒川区産業展出展等★米沢市★広尾町★南アルプス市：区内での果物配布、荒川区民を対象としたツアー実施等						
経過	※交流開始順に記載、（ ）内は提携・協定締結年度 秩父市（旧荒川村）：S56姉妹提携、H7防災協定・21再調印北杜市（旧高根町）：昭和58年大多喜町：昭和60年（H7友好都市提携・防災協定）鴨川市：昭和62年（H3友好都市提携・H7防災協定）上越市（旧吉川町）：昭和62年（H7防災協定）福島市：平成6年（H18防災協定）桑折町：平成6年（H23防災協定）石川町：平成6年（H8防災協定）村上市（旧荒川町）：平成8年釜石市：平成9年（H11防災協定）射水市（旧下村）：平成11年（H26防災協定）鮭川村：平成15年（H24防災協定）三条市：平成15年福井県：平成16年潮来市：平成16年つがる市：平成16年二本松市（旧東和町）：平成17年小野町：平成17年つくば市：平成18年（H20年5月友好都市提携、H24防災協定）津南町：平成19年大垣市：平成19年（H23防災協定）米沢市：平成20年（産業連携協定締結）広尾町：平成21年成田市：平成22年印西市：平成22年南アルプス市：平成24年佐渡市：平成26年真室川町：平成27年						
必要性	国内の都市との交流を積極的に推進し、荒川区の魅力と活力を高めることにより、より豊かな区民生活の実現が期待できる。						
実施方法	（1直営）（直営の場合●常勤○非常勤○臨時職員） 一般財団法人東京城北勤労者サービスセンターが実施している交流都市ツアーに対して、補助金を支出。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		2,630	2,136	1,427	9,832	1,471	1,272	1,974
	①決算額（27年度は見込み）		1,884	1,601	837	9,741	1,194	1,155	1,974
	②人件費等		3,828	4,360	6,098	5,535	7,485	5,021	
	③減価償却費			1,453	2,239	2,162	3,042	2,113	
	【事務分担量】（%）		47	50	72	67	90	65	
	合計（①+②+③）		5,712	7,414	9,174	17,438	11,721	8,289	1,974
	特定財源	国	0	0	0	0	0		
		都	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		5,712	7,414	9,174	17,438	11,721	8,289	1,974
実績の推移	事項名		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	交流都市数		23	25	25	26	26	28	28

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	まつりの出店経費	349	報償費	まつりの出店経費	320	報償費	まつりの出店経費	346
需用費	交流都市等訪問時贈い、土産等	286	旅費	交流事業調整、まつり参加	152	旅費	交流事業調整、まつり参加	259
負担金補助等	交流事業補助	255	需用費	交流都市等訪問時贈い、土産等	360	需用費	交流都市等訪問時贈い、土産等	906
旅費	交流事業調整、まつり参加	223	負担金補助等	交流事業補助	323	使用料等	交流事業用バス借り上げ	125
委託料	福井そば打ち体験	81				負担金補助等	交流事業補助	338

指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	交流事業実施都市数		22	21	22	28	28	
	②							
	③							

（問題点・課題 指標分析）	交流都市の増加に伴い、交流状況に濃淡が生じていることを踏まえ、それぞれの都市との交流状況に応じて幅広い交流ができるよう、他課とも連携した事業実施について検討を行う必要がある。							
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）							
他区の実 施状況								

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	産業振興や観光振興、地域の活性化等につながるような事業のしくみづくりを行う。	商店街における交流都市の果物の配布など、地域の活性化につながるイベントを実施した。	各交流都市と区民相互にとってメリットの大きい交流内容を検討する。
②	訪問バスツアー、産品・グリーンツーリズムなど、各都市の魅力を実感し、その後の交流に結びつくような事業を企画・検討する。	新たに福島市、南アルプス市への区民ツアーなどを実施し、交流都市の魅力を区民にPRした。	区民参加型のツアーや、区民同士の相互交流が可能な事業の実施に向けて、各都市と調整を行う。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
重点的に推進	重点的に推進	生活環境や地域文化の異なる地域と交流することにより、まちの魅力と活力を高める。

況 議 （会 要 質 旨 問 状	・ H25年観光・文化 ・ H25年観光・文化 ・ H26年観光・文化	サケの里親交流事業について 物産展にて各都市が気軽に出店できる方法（コスト面）について 下田市との交流について
------------------------------	---	---

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-03	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	国際交流協会補助	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課		課長名	佐藤	
		担当者名	白石		内線	2524	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-03-01	国際交流協会補助					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度） ○建設事業 ●それ以外の継続事業						
開始年度	○昭和 ●平成		5年度	根拠	荒川区国際交流協会補助金交付要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等	設立趣意書		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	○計画 ●非計画		
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	02 国内・海外都市との交流の推進					
目的	区民の国際交流活動の拠点として国際交流事業を推進し、外国都市との友好親善と区民の国際理解を深めながら荒川区の国際化を図り、荒川区を世界に開かれた夢のあるまちとすることを目的とする。（協会会則第3条）						
対象者等	荒川区国際交流協会 設立 平成5年10月21日 組織 理事12人、事務局5人（区職員兼務）、監事2人 会員 賛助会員（208名）、協力会員（525人） ※平成27年4月1日現在						
内容	≪荒川区国際交流協会の主な事業≫ ※（）内は開始年度 ○在住外国人支援事業 日本語教室（13年度：5～12年度では区事業）…年間132回（66回×2コース） ○国際理解・啓発事業 日本語サロン（10年度）…週1回×2コース、世界の料理教室（24年度）、広報宣伝活動…協会便り（年1回発行）事務局便り（月1回発行）、ライフサポートニュース（年1回発行）、産業展出版 ○区民相互の交流事業 川の手荒川まつり出展、日本語スピーチコンテスト（7年度）、外国人のための防災講座、国際交流バスハイク（6年度）、茶道教室（13年度）、華道教室（23年度） ○世界の国々との交流事業 ウィーン市ドナウシュタット区との交流事業、外国からのインターン大学生受入（17年度）、日澳親善コンサート（26年度）、ホームビジットの試行（26年度）、済州青少年国際フォーラムへの高校生派遣（26年度）						
経過	自主財源率（会費及び事業収入等）の推移 12年度までは総収入の15%程度、15年度以降は45%（補助金減、賛助会員や受益者負担の増による） 17年度は済州市、大連市中山区との友好都市提携に伴う、区補助金増のため38%となり、以後18年度41.8%、19年度37.2%、20年度32.7%、21年度36.7%、22年度37.6%、23年度31.7%、24年度31.3%、25年度は30.7%、26年度は35.1%である。						
必要性	国際交流事業や在住外国人への支援、地域の外国人との交流を推進し、区民の国際理解を深めるとともに、多様な文化が共生できる地域社会を実現するため、団体への支援は不可欠である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 協会の派遣依頼により、地域文化スポーツ部長は事務局長、課長は事務局次長、都市交流係員は事務局員を兼職。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		6,147	6,147	5,147	6,147	6,147	6,147	6,147
	①決算額（27年度は見込み）		5,603	4,950	3,343	4,636	4,005	5,727	6,147
	②人件費等		10,587	11,336	11,010	10,739	10,812	9,656	
	③減価償却費				4,043	4,195	4,394	4,064	
	【事務分担量】（％）		1	1	1	1	130	125	
	合計（①＋②＋③）		16,190	16,286	18,396	19,570	19,211	19,447	6,147
	特定財源	国	0	0	0	0	0	0	0
		都	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源		16,190	16,286	18,396	19,570	19,211	19,447	6,147	
実績の推移	事項名		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	協力会員（人数）		382	428	502	584	581	525	580
	賛助会員（件数：団体＋個人）		106	129	94	115	114	208	200
	補助金の協会事業に占める割合（％）		63.3	62.4	68.3	62.3	59.5	63.3	60.4

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	国際交流協会補助	4,005	負担金補助等	国際交流協会補助	5,727	負担金補助等	国際交流協会補助	6,147

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	協力会員・賛助会員数	699	695	733	740	750	個人＋団体数
	② 協会事業参加者数	3,613	3,322	3,698	3,800	3,900	日本語教室等は延べ人数
	③						

（問題点・課題分析）	・国際交流協会の活動について積極的にPRし、実際にボランティア等の活動を行う会員や事業への参加者を増やす必要がある。 ・賛助会員を増やすことで、協会の自主財源率の向上に努め、財政基盤を確たるものとする必要がある。
	（実施 8 区 未実施 14 区 不明 0 区） 国際交流設置自治体※東京都国際交流委員会HPより

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	協会事業の周知について、ホームページブログ等の他に、SNS等の活用を検討し、協会事業についてタイムリーな情報提供を行う。	協会HPの更新等を行ったが、情報発信についてはさらに改善が必要である。	協会HP及びブログをさらに充実させる。また、SNS等活用による情報発信を行い、事業への参加者や会員を獲得する。
②	新規賛助会員の獲得のため、賛助会員登録の特典等を検討する。	協会の積極的なPRと新たな会員特典を設けることにより、新会員獲得につながった。	区内在住の外国人会員獲得のため、周知方法等を検討する。
③	協力会員の活動の機会として、外国人住民の生活支援のための通訳ボランティア制度を検討する。	コミュニティ通訳ボランティア養成講座を開催し、外国人の母子健診等における通訳ボランティア登録制度を立ち上げた。	日本語サロンボランティアや通訳ボランティアを養成し、その活動の機会を広げる仕組みを構築する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
重点的に推進	重点的に推進	区民主体の国際交流の推進母体として区が重点的に支援することが必要である。

況 議 会 （要 質 問 状）	・H26決特 ホームビジットの実施について
--------------------	-----------------------

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-04	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	海外都市交流事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課		課長名	佐藤	
		担当者名	白石		内線	2524	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）	01-03-02	海外都市交流事業					
事務事業の種類	○新規事業（○27年度 ○26年度） ○建設事業 ●それ以外の継続事業						
開始年度	○昭和 ●平成		5年度	根拠	友好都市提携協定		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等	国際化推進員設置要綱		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	02 国内・海外都市との交流の推進					
目的	海外都市に対する区民の関心を高めることにより、世界に開かれたまちとしての荒川区の魅力や活力を高めるとともに、産業交流等により区内の優れた技術や製品を広くアピールする。（荒川区都市間交流に関する取り組み指針）						
対象者等	・ドナウシュタット区(オーストリア共和国ウィーン市)…平成8年10月21日提携(荒川公園に桜を植樹) ・済州市(韓国済州特別自治道)…平成18年2月17日提携 ・中山区(中国大連市)…平成18年3月10日提携 ・コーバリス市(アメリカ合衆国オレゴン州)※提携調印無						
内容	海外友好都市等との都市間交流、連絡、調整及び相互訪問等 ＜ドナウシュタット区＞高校生相互派遣（受入：6年度～、派遣：9年度～）（国際交流協会主管） ウィーン大学生の荒川区での研修受入 ＜済州市＞区民ツアー、済州市研修生受入、ABC卒業生の短期派遣、ドルブルへの参加 済州島青少年国際フォーラムへの高校生派遣（国際交流協会主管） 済州市老人会の訪問受入（民間交流） ＜中山区＞区民ツアー、産業交流（日暮里ファッションショー）、ABC卒業生の短期派遣 ＜その他＞オレゴン州立大学研修生受入（9年度～）						
経過	[ドナウシュタット区]7年度 東京荒川少年少女合唱隊ドナウシュタット区訪問（23年度にも再訪） 13年度 提携5周年記念荒川展(ドナウシュタット区)、ドナウ通り・広場(南千住) 18年度、23年度 区民ツアー(協会事業) 20年度 両区訪問団相互訪問、26年度 ラルゴ・フットボールクラブ親善試合（民間交流） [済州市] 17年度 市制施行50周年記念式典に荒川区議会副議長他出席、両区・市長相互訪問 18年度、22年度 区民ツアー(協会事業) ※22年度はフラダンス団体も派遣（民間交流） 19年度 市職員研修生の受入（～24年度）、ドルブルへ代表団派遣（～22年度、24・26年度） 25年度 友好交流5周年事業実施 [中山区] 17年度 両区長の相互訪問、9年・18年・22年度 区民ツアー(協会事業)、21年度 職員派遣 [コーバリス市]4年度 児童生徒絵画展を相互開催（～7年度）、5年度 コーバリス市長夫妻来日 6年度 区長訪問、区職員研修生派遣						
必要性	荒川区を世界に開かれたまちとして、産業・観光・芸術文化・スポーツなどの広範な分野にわたる交流を深めていく必要がある。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員) 交流事業は荒川区国際交流協会が実施している。						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		12,689	12,500	16,954	9,847	10,417	12,552	13,459
	①決算額（27年度は見込み）		9,674	11,263	15,713	9,479	8,581	11,692	13,459
	②人件費等		3,583	3,488	2,541	2,478	1,663	1,931	
	③減価償却費				933	968	676	813	
	【事務分担量】（％）		0	0	0	30	20	25	
	合計（①+②+③）		13,257	14,751	19,187	12,925	10,920	14,436	13,459
	特定財源	国	0	0	0	0	0	0	0
		都	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0
		一般財源	13,257	14,751	19,187	12,925	10,920	14,436	13,459
実績の推移	事項名		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	海外出張旅費支出人数		3	13	4	3	0	6	6
	海外受入・訪問団体数		4	2	1	1	3	3	3

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	国際交流推進員報酬	7,398	報酬	国際交流推進員報酬	9,084	報酬	国際交流推進員報酬	9,086
共済費	国際交流推進員社会保険料	1,106	共済費	国際交流推進員社会保険料	1,309	共済費	国際交流推進員社会保険料	1,340
旅費	交流都市訪問等	67	旅費	交流都市訪問等	1,261	旅費	交流都市訪問等	1,996
旅費	国際交流推進員旅費	10	需用費	交流都市等訪問団受入賄い等	16	需用費	交流都市等訪問団受入賄い等	808
			役務費	交流都市訪問時入出国税等	22	役務費	交流都市訪問時入出国税等	176
						使用料等	交流都市訪問時通信機器使用料	53

指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			24年度	25年度	26年度	27年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	訪問回数		5	2	4	4	6	荒川区⇒海外都市
	② 受入回数		6	7	7	7	10	海外都市⇒荒川区
	③							

（問題点・課題分析）	友好交流都市であるウィーン市ドナウシュタット区、済州市、大連市中山区との交流について、広く区民に交流実績及び交流意義をPRしながら継続的な交流しつつ、民間交流を拡大していく必要がある。また、平成28年度は、提携開始から節目の年を迎えるため（済州市・中山区10周年、ドナウシュタット区20周年）、記念式典等の計画的な準備をする必要がある。							
	（実施 20 区 未実施 2 区 不明 0 区） 姉妹・友好都市提携状況							

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む 具体的な改善内容	平成26年度に実施した 改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	訪問者数の増加を目指し、川の手まつりや産業展等において各交流都市のPRを行い、区民が交流都市へ訪問することを促進する。	民間団体交流補助を活用し、区内のスポーツ団体が交流都市へ訪問し国際親善試合を行った。また新たな相互派遣事業実施に向け検討した。	民間交流の拡大のため、引き続き効果的なPRを行い、交流都市への訪問者数の増加を図る。
②	各交流都市の関係者など視察希望者を継続して受け入れる。さらに民間交流が拡大するよう、効果的なPRを行う。	ドナウシュタット区の高校生や、大連市の産業関係者の受入を継続しつつ、今後も交流が継続するような事業等を検討した。	平成28年度は各交流都市との提携開始から節目の年を迎えることから、記念事業の実施を検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
重点的に推進	重点的に推進	国際理解、文化振興のため大きく貢献する事業である。

況 議 会 （要 質 問 状）	・ H25年2月観光文化 済州市との交流について ・ H25予特 海外都市との交流事業について
--------------------	--

事務事業分析シート（平成27年度）

No1

主要事業	事務事業コード		04-01-08	戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事
事務事業名	あらかわキャラバン事業			部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課		課長名	佐藤
				担当者名	田上		内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（27年度）		01-07-01	あらかわキャラバン事業					
事務事業の種類		○ 新規事業（○ 27年度 ○ 26年度）			○ 建設事業		● それ以外の継続事業	
開始年度	○ 昭和 ● 平成			20 年度	根拠			
終期設定	○ 有 ● 無			年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	○ 計画		● 非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	02	国内・海外都市との交流の推進					
目的	荒川区と交流都市との交流は、双方の地域の祭りに参加するなどして、名産品の紹介・販売や、人々との交流は図られてきたが、芸術・芸能・文化面で各都市を代表する団体・個人の交流を更に活性化させるため、キャラバンとして区を代表する団体・個人を交流都市等へ派遣し、交流・公演をすることにより、区の芸術文化面を紹介するとともに、区民の芸術文化活動を促進する。							
対象者等	交流都市に赴き文化・交流事業を展開できる荒川区内の団体及び個人。							
内容	派遣団体は、キャラバン隊として5年程度の間、毎年異なる交流都市に出向き、交流活動を行う。区は交流都市との調整を実施するとともに、派遣に必要な交通費、宿泊費等の必要経費を負担する。 ※21年度まで国内都市交流事業として区内団体を派遣していた鴨川市及び大多喜町との交流事業について、22年度から事業を組み替え「あらかわキャラバン事業」として実施。							
経過	《区内三味線デュオの派遣》 ○平成26年度：南アルプス市 《東京荒川少年少女合唱隊の派遣》 ○平成20年度：つくば市 ○平成21年度：福島市 ○平成23年度：釜石市 ○平成24年度：秩父市 ○平成25年度：北杜市 ※平成22年度は震災により鴨川市への派遣中止 《区内ダンスグループの派遣》 ○平成21年度～：鴨川市へ派遣 《太鼓団体の派遣》 ○平成20年度～：大多喜町へ派遣 ※キャラバン事業開始以前より、派遣を実施							
必要性	荒川区を広く紹介し、区の文化振興を図るために必要な事業である。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員)							

(単位：千円)

予算・決算額等の推移			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	予算額		1,824	1,796	1,986	1,219	937	965	1,377
	①決算額（27年度は見込み）		1,316	120	1,379	1,127	884	463	1,377
	②人件費等		2,850	2,616	2,964	2,726	4,159	1,545	
	③減価償却費			872	1,089	1,065	1,690	650	
	【事務分担量】（%）		35	30	35	33	50	20	
	合計（①+②+③）		4,166	3,608	5,432	4,918	6,733	2,658	1,377
実績の推移	特定国		0	0	0	0	0		
	特定都		0	0	0	0	0		
	特定その他		0	0	0	0	0		
	一般財源		4,166	3,608	5,432	4,918	6,733	2,658	1,377
実績の推移	事項名		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	派遣団体数		3	1	2	3	3	3	3

予算・決算の内訳								
平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
使用料等	バス借上げ・宿泊料	396	報償費	団体出演報償費	132	報償費	団体出演報償費	132
役務費	交通費・保険料	243	旅費	職員旅費	29	旅費	職員旅費	20
報償費	団体出演報償費	132	需用費	食糧費・土産	33	需用費	食糧費・土産	110
需用費	食糧費・土産	74	役務費	交通費・保険料	17	役務費	交通費・保険料	89
旅費	職員旅費	39	使用料等	バス借上げ・宿泊料	252	使用料等	バス借上げ・宿泊料	1,026

指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			24年度	25年度	26年度	27年度見込み	目標値(28年度)	
①	訪問都市数		3	3	3	3	4	キャラバン隊が訪問する交流都市の数
	②							
	③							

（問題点・課題分析）	①キャラバン隊として、区を代表して活動を行う新たな団体の発掘をACCと協力して行っていく必要がある。 ②派遣先となる交流都市についても、受入可能な都市を広く募っていく必要がある。							
	（実施 0 区 未実施 0 区 不明 22 区）							
他区の実況								

問題点・課題の改善策			
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度に実施した改善内容および評価	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	キャラバン隊として、区を代表して活動を行う新たな団体の発掘を、ACCと協力して行う。	ACCと協力し、新たな団体を発掘できた。	ACCと協力し、引き続き新たな団体の発掘を行う。
②	派遣先の交流都市に荒川区を代表して芸術・文化活動を行う団体の受け入れ希望を調査する。	派遣団体の受入希望調査を実施し、過去に受入を表明していなかった交流都市から、受入れていただくことができた。	26年度の調査結果に基づいて、荒川区から派遣する団体を選出する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	芸術文化面で区を代表する個人・団体を交流都市に派遣し、交流促進とともに芸術文化振興を図る。

議会（要旨）	状況
--------	----